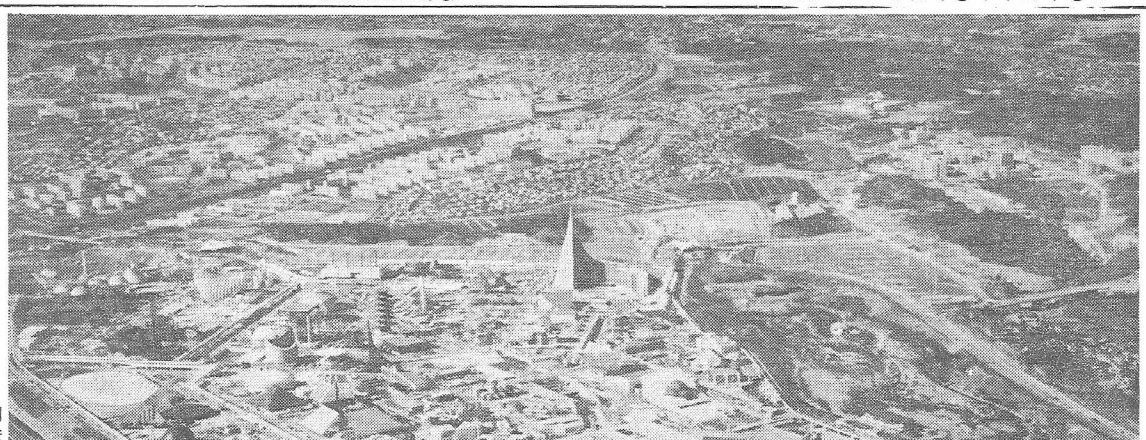
友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽 1-7-1
電話 東京 (941) 2801
編集兼発行人 斉藤 実
定価 1部 10円



開会を待つ万博会場—万博協会提供—

七〇年代は友愛の時代

会長 鳩山 薫

皆様には、お変わりなく一九七〇年を迎えのことと存じます。

激動の七〇年代はどという言葉を聞くにつけ、健全な活動を続けております私共の友愛運動を磨かなければならないと心に誓っております。同時にこの運動を進める皆様に非常な期待を寄せているのでございます。

本会の結成当初の苦難を乗り越え、本年は十八年目を迎えようとしておるのでございます。その間友愛山荘の建設をはじめといたしまして、東南アジア医師団の派遣移動文化映画班、歯科診療無医村地区巡回、国際道義高揚友愛キャラバン隊、友愛文化講演会などなどさんの事業を全国各地で展開して参って来ておるのでございます。また、各地での支部活動もますます盛んになって参りました様子を拝見しておりまして非常に心強く感じておるのでございます。これらが一体となって今日では友愛運動も万人の認めるところになって来ておるようでございます。

世は断絶の時代などと申して、親と子、大人と青年、経営者と労働者、教授と学生等の断絶は目を覆うばかりでございます。敗戦という未曾有の経験があるにも関

昨年は、人類がはじめて月に到着し、沖縄の本土復帰の見通しが確定した、記念すべき年でありましたが、いま、ここに新たに一九七〇年代の最初の年を迎え、皆さんとともに、新年を考えるにあたりあらためて二十一世紀が真近いことを思い、新しい時代の息吹を感じます。

わが国は近年めざましい経済の発展をとげ、自由主義諸国家の中で第二の経済力をもっていたりました。これは、戦後日本人が一体となって、努力してきた賜でありすばらしいことであります。

しかしながら、この経済繁栄の中にあって、最近では、人間疎外とか人間性喪失とかが論議されています。そもそも経済は、人間の

哲学する青年

総理大臣 佐藤栄作

わたくしは、物質的な豊さは、これが心の豊かさに結びついて、はじめて尊く、国は、平和に徹し国際社会に対して責任を負いえて、はじめてすぐれていると信じます。

種々の面で、わが国が転換期にたちにあるはずなのに、経済の急激な発展のために、人間性が疎外されているとすれば考えなおさなければなりません。かりに日本人の心が貧しくなりつつあるとすれば、これは由々しいことであります。

人間は尊厳な独自の個性を持つと同時に、相互に社会連帯の意識によって結ばれており、それぞれ

友愛的前進

副会長 宮川三郎

◇あるただしかった四十四年は己に去ったが、四十五年をあわただしい年になると思われる。

技術革新は進み経済は高度に成長し、国際収支は黒字となり、GNPは世界第二位になる……世界はアッと驚くタメゴロウである。

タメゴロウは驚いてもよいが吾等は驚いてはならない。成長するのは日本にとって当然のことだからである。

人間だって幼い間、若い間は成長する。経済だって育ればそと成長する。経済はまた若い。

◇日本経済はまた若い。但し率直に言い換えれば「未熟」ということである。身近な処だけ拾い上げても道路は未熟、住宅は未熟、交通は未熟、教育制度は未熟、議会制度は未熟である。数えあげたら目

力強い第一歩に

副会長 地崎宇三郎

新年おめでとうございます。

一九七〇年代の最初の年を迎え、戦後二十五年の基礎しながら、わは国の青少年が、社会連帯の意識を一層強くし、進歩する社会にふさわしい倫理感の根軸として、わが国特有の精神文明を確立し、世界の平和と、文化に、独自の貢献をすることができることを期待します。

なぜならそれは、未来を担う青少年にのみ期待できることだからです。

そのためには、一人ひとりの青少年は、具体的に何をすべきであるか、年頭にあたり、わが国の青少年が二十一世紀の担い手としてそれぞれの人生の展望をもたれることを強く希望し、新年のご挨拶とします。

友愛的前進

副会長 宮川三郎

と政治・経済面からすれば第二次的割しか果さない様に見られがちですが世代の一体感がないがしろにされており時代には、決して連帯感なく生まれて来ようはずはありません。私共の運動が

真に次代を担ってゆくためには、新しい価値観の下に同志を結集して、平和への理想と信念に心を燃やして現代社会に挑戦して行く姿勢が必要だと存じます。私達は乾燥した砂漠に運河による実りを生み出すのは、友愛革命であるという強い信念の下に活動を進めて参りたいと存じます。どうか皆様も、そのおつもりで御活躍下さいますようお願い申し上げ、皆様の御健康を祈り、年頭のご挨拶といたします。

力強い第一歩に

副会長 地崎宇三郎

あらためて新しい時代の息吹を感じます。

本会も故鳩山一郎先生が創設されてからすでに、十八年目の年輪を数えることになります。ある時は大きく成長し、ある時は停滞し、まさに風雪霜雪の歴史であったと言えます。

一方外に目を向けると、一九七〇年は内外を問わず政治的、経済的、その他いろいろな意味において重要かつ意義のある年であるとされております。それは一九六〇年代から一九七〇年代にかけての出発点であり、歴史の上での大きな節となるからです。

六〇年代をふりかえって見ると対外では、ケネディ大統領の出現とその悲劇的な死、国際政治に多大な影響を与えたベトナム戦争、人類の"意識革命"を目指した中国文化大革命、人類の月面到着等

過ぎて、七〇年代をレジャーをエンジョイするのが人生の目的となる時代だということであろう。豊かな金と暇とを如何に有効に使うかが七〇年代の課題というのだから楽しくなさるを得ない。

けれども私は反対する。諸君のためには警戒する。現実の速度は夢のように早いものではなく政治経済の予測が当ったためしは誠に少ないからである。

◇矢張り吾々は着実に働かねばならない、政治経済社会の分野で未熟の穴を埋めるために働かねばならない。

六〇年代の躍進は世界の驚嘆するところであるが、難と言えば単騎突進形態の無人の前進であった。そこで顧わるに七〇年代の成長前進は、吾もよし、人もよし、対内も対外も均衡のとれた総合検隊形であって欲しいということである。

申すまでもないことながら、傍若無人的前進は友愛精神の最もいきらうところである。

次年度に地方大会の開催を検討

—在京組織委員会—

組織委員会は去る十一月二十

七日午後三時から在京委員会を開き下半期の組織拡充計画を討議した。

下半期対策として現在推進している会員増加運動をいかに盛り上げて行くか、又それをいかに組織としてまとめて行くかの二点について、特に東京都の対策が討議された。これについては十二月の初旬に東京都内の支部組織の役員との懇談会を開き検討することになった。

四十五年度の組織計画については全国七ブロックにおいて地方大会を実施すべしとの意見が出され検討された。地方大会の意義としての本部と地方とがより密接となり運動の一体化が図れる②開ブ催ロック同士の繋がりが強まり組織拡充に大きな効果を与える③ブロックの同志が参加しやすくなる合理的な指導者の育成を図る④地方大会を同じく二回開いて一般大衆に働らきかける方策がとれる。例えば講演会、公開研修会等々の四点があげられた。

以上討議された結果、組織委員会としては地方大会を是非開催したいとの前向きの姿勢で今後、予算・規模・内容・形態等組織の意向などの実際上の問題点について検討を加えて行くことなった。

また国内では六一年の日米安保条約の改定をめぐっての争動、国民総生産世界第二位、そして高度経済成長のひずみが原因とされる公害問題、世界的傾向でもあった大学紛争、それに沖縄基地問題など挙げると数限りない。こういった六〇年代の諸々の評価については各々異った意見が出されるでしょうが、しかし六〇年代全般を見て共通していえることは、内外ともに非常な激動の一〇年間であったこと。そして世界の世論は、七〇年代に向って"平和"を希求しているということでしょう。

ここに世界のそれぞれの国、それぞれの人類が結びつく接点"友愛の対話"が求められているのです。そしてそれぞれ全人類が世界平和を求めている時はありません。

全国の同志の皆さんは、年頭にあたり改めて"友愛"の必要性を認識し、今日から七〇年代の力強い第一歩を踏み出されんことを念願してやまません。

七〇年代に、そ"友愛"飛躍の年となる努力を致しましょう。

直言

◇「友愛運動は友愛運動の否定を求めている」これは逆説を含む友愛運動の必要性を唱う主張である会員の言葉である。それは、社会の人々てが友愛に目覚めるとき、友愛を広めようとする運動は止まるが、我々が求めて止まぬ理想郷である友愛社会は、一人一人の人間を磨いて人類の花として開花させることが出来ることを主張しているのである。良く考えないと一寸と理解に苦しむ言葉であるがその本意を聞いてみれば納得のいく言葉である。

◇この言葉も、七、八代の直言によって担ぎされ、さりやかながらも私の二冊を直言として掲載が許されるようになって数年になる。どれ程の影響力を持っているかは定かでないが、以前の直言と比べればこの内容において性格を異にしている。それぞれ書く人にもより、経験にもより、文章表現の上等、下手により差異は出て来るのは当然であろうと思う。しかし、今までのそれを読むとそれぞれ含蓄のある言葉である。

◇直言とが和尚と名のるのもおかしいとは思うが、その時代の文貴の所在が明確である位に思って戴ければ幸である。こんな事を書くと誤字等の我が身を表しているようで汗顔の至りであるが直言の意がカスミに隠れてはっきりせぬ方が重みがある様な気がしないでもない。でも、私の意としては、日刊紙の性格と大いに異なっていて良いと思っている。簡神面に焦点を絞り、会員の意見疑問等も紹介しながらあえて、一人一人の心の中に入り込むことを目指して筆を進めている積りでもあり、それが、少しでも友愛革命への道標となれば望外の幸である。

◇書く事のむずかしさは話すことのむずかしさと相通じるものがある。日常は、誰でも喋れるようなことで話はするが、反面易に流れがちである。そこに感情等も入って来ると複雑な作用を及ぼすようになって来る。その中で、お互が「この自覚に向つ一体感を認識し、今日から七〇年代の力強い第一歩を踏み出されんことを念願してやまません。

◇「友愛運動は友愛運動を続けている」これは逆説を含む友愛運動の必要性を唱う主張である会員の言葉である。それは、社会の人々てが友愛に目覚めるとき、友愛を広めようとする運動は止まるが、我々が求めて止まぬ理想郷である友愛社会は、一人一人の人間を磨いて人類の花として開花させることが出来ることを主張しているのである。良く考えないと一寸と理解に苦しむ言葉であるがその本意を聞いてみれば納得のいく言葉である。

◇この言葉も、七、八代の直言によって担ぎされ、さりやかながらも私の二冊を直言として掲載が許されるようになって数年になる。どれ程の影響力を持っているかは定かでないが、以前の直言と比べればこの内容において性格を異にしている。それぞれ書く人にもより、経験にもより、文章表現の上等、下手により差異は出て来るのは当然であろうと思う。しかし、今までのそれを読むとそれぞれ含蓄のある言葉である。

◇直言とが和尚と名のるのもおかしいとは思うが、その時代の文貴の所在が明確である位に思って戴ければ幸である。こんな事を書くと誤字等の我が身を表しているようで汗顔の至りであるが直言の意がカスミに隠れてはっきりせぬ方が重みがある様な気がしないでもない。でも、私の意としては、日刊紙の性格と大いに異なっていて良いと思っている。簡神面に焦点を絞り、会員の意見疑問等も紹介しながらあえて、一人一人の心の中に入り込むことを目指して筆を進めている積りでもあり、それが、少しでも友愛革命への道標となれば望外の幸である。

◇書く事のむずかしさは話すことのむずかしさと相通じるものがある。日常は、誰でも喋れるようなことで話はするが、反面易に流れがちである。そこに感情等も入って来ると複雑な作用を及ぼすようになって来る。その中で、お互が「この自覚に向つ一体感を認識し、今日から七〇年代の力強い第一歩を踏み出されんことを念願してやまません。

和尚

沖縄の印象 1

深津栄一

□友愛今昔物語

もっと早く書くべきであった沖縄旅行の報告が年を越してしまったのは、もちろん私の怠慢によるが、その半分のせめは編集部にあるべき。「友愛」に頼まれて出かけたときーたとえその費用が私もであったにしてもーその報告を友愛誌上にかなり書かせるというのが、友愛のしきたりであった。こうして私は友愛新聞に、ずいぶん「タダ」の原稿を書いた。友愛新聞発刊二十周年でもあれば、私は堂々と寄稿者として表彰されるべきである。しかし最近の事務局は、これまでのなんぺんであったにしても―その報告をおしつけるという伝統をすてしまった。友愛で講演でもすれば、封筒に入った車代をもってくるようになった。しかし十年余にわたって原稿を同じように「タダ」の講演に飽きられてしまっていた私は、はじめてハトロン紙の封筒に入った千円札を見たとき、これは何ですかと聞いたくらいであった。いつもピイピイしている私にお金がいらないわけではない。私の講演は、原稿と同じように一回数万円のネウチがあるとウヌボレテいたからである。

友愛新聞の渡辺昇君が事務局長兼編集局長のころは、原稿の催促と言ったら、まったく高利貸のそれであった。生れつき気の小さい私は彼の催促であうと、徒刑中の囚人のごとく、幾にもならない原稿でも、書かなければならないという気持にさせられてしまった。鳩山先生が会長である友愛の新聞だから、必ず高額の原稿料がでているにちがいない、と私の条件は長い間思っていたそうである。酒もタバコものまない私が、このまぼろしの原稿料が何につかうか、うたがっていたそうである。酒とタバコのほかはナニかと。

こうして私に長い間スレギスを寄せていた初期の友愛は、ライオンと虎と羊一匹のこれが私テアルの群れであった。じっさい事務局につめていたあの女の子は、ライオンの一匹にあの玄関までの坂の途中でつかまりクワレテしまったし、他のライオン二匹はこの女の子の友達の二人を赤坂離宮のあたりでクッテしまったノデアル。しかし、友愛の草創期をささえていた人々が去り、若い人々の代になると、この猛獣の群はスマートなグレーハウンドの集団に変化した。講演は車代を出すようになり、原稿料が出せないときは原稿を頼まなくなった。たとい頼んでも催促をしなくなったのである。

こうして私は、昨年の十月九日沖縄にでかける前に、永田清成君が慫慂したから頼んだ友好の原稿をすっかり忘れてしまった。沖縄旅行のメモや沖縄支部の船山喜聖君がくれたたくさんの資料は、研究等の資料棚におかれたまま紛失してしまった。沖縄から何枚かの年賀状がとどいている。返事を書かなければと思って、各自の体験を基とした相互交換による沖縄の問題を解決して行かねばならない。その中で自分の作成、その為の資金の捻出方法等の図の作成。そのための資金の捻出方法等について議題として参りたい。

沖縄の問題は長い間の積み重ねであり、簡単に解決出来ないものと信じます。

第三番目の友愛会館の建設運動具体的推進については、数年前から全国大会ス

ローガンをして取り組みがなされながら、その運動がなかなか盛りあがらなかった面の反省も含めて、建設するという決意から始まると存じます。青年は無から有を生じさせる魔術師であると言われるが、我々の運動は無から友愛運動を起こし、友愛山荘の建設、友愛運動の実績というものを築きあげているものであるべきはずである。

四人に一人を失ったということは奇妙なことである。平均してみればすべての沖縄の人びとがその家族のだれかをこの戦争で失ったということである。それは、六十余名の友愛沖縄支部のメンバーのほとんどが私たちの戦争で失ったということである。

□生きのこった人々

しかし、私が会った支部会員はすべて明るく快活であった。彼等が若いからであろうと私は思った。それでも誰か一人くらい近親者を失くした沖縄戦のことを語ってくれてもよさそうだと私は思った。しかしそれは、私が沖縄の人々の心の底にある深いかなしみを、知ることができなかった結果であったのである。

それが私にわかったのは、沖縄の戦跡のイメージをもとめ、沖縄の人々がそれをもたないねん。明かるい南国の日ざしの中で、平和地というイメージのもう暗さは全くなかった。私はひろびろとしたサトウキビ畑やみどりの丘のそこここから二十数年前の硝煙を多くとも感じるのではないかと思った。むしろ、南部の戦跡にたち多数のさまざまな慰霊塔の存在が逆にもっと思い出せ、もっと思い出せと、そこを訪れる人々におしかけてくるようであった。忘れた方がいいのか、思い出した方がいいのか、私にはわからない。しかし私を案内してくれた石川君や津波古君も、翌日中部から北部を案内してくれた宇那嶺博君（前事務局長）や長嶺勝代さん（昨年の大会に来日）も、それを全くしてしまったように明るく快活であった。

考えてみると、本土から訪れるわれわれが戦跡のイメージをもとめ、沖縄の人々がそれをもたないものを築きあげているのではないか。今までに各地で実施して来た会館建設を前進させるとともに、候補土地の選択。設計図の作成。そのための資金の捻出方法等について。⑥C・P・R所修計画派遣について　⑦その他である。

①については、沖縄・近畿ブロック、東京と落ち、盛り上がりが徐々あり、動員面に於てもかなり積極的な動きがあった。又、来年実施する場合、出来る限り資料を揃える事とした。②は、四国ブロック、九州ブロックに開催される予定であるが、準備の方全を期することとし、他の開催予定地は発議院解散のニュースが流れており、延期することとした。③は、組織部より依頼があり、十一月に各会員一名獲得運動を起し、役員も相当の会員獲得目標を展開することとした。④は、十一月一日より二十五日まで行なわれ、本会としては、例年通り取組み、支援をもって方策を指導することとした。⑤は、三月中旬より四月上旬までに予定期間を立て、詳細は事務局にて作成することとした。⑥は、毎年米国より、招待があり、希望者があれば、推薦することとした。

去る十一月五日（水）午後七時と、十二月三日（水）午後七時に第七回、第八回の常任幹事会が宮羽、本部事務所にて開催された。第七回常任幹事会は、田中祥子常幹の議長の下に行なわれ、議題は次のものであった。

①友愛文化講演会の評価と反省②友愛文化講演会今後の取り組み③会員増加月間の取り組み④歳末助け合い運動の取組みについて　⑤実践アジア派遣について　⑥その他

第八回常任幹事会は、斎藤実常幹の議長の下に行なわれ、議題は次のものであった。

①第七次東南アジア使節団派遣について②友愛文化講演会開催延期について③会員増加月間について④歳末助け合い運動について⑤年末・年始について。

は、期間は、昭和四十五年四月五日より二十五日までの三週間で、派遣地は、タイ、マレーシア、シンガポール、カンボジア、中華民国、香港、他ベトナム、沖縄を交渉中で、経費は二十五万円以内の予定である。特に来年行なわれる万国博の視察も兼ねて派遣することとした。②は、前橋、浦和、千葉を昭和四十五年三月四、五、六日に、福岡、北九州、広島、岐阜を三月十一、十二、十三、十四日に変更し、講師、会場については、再交渉することとした。③は、十一月増加月間を延期し、十二月末日迄とすることとした。④は、第二十五回幹事会にて、社会福祉活動の一環として月間を設けることを決定、期日を十一月一日から二十五日までとし、支援に連絡することとした。⑤は、仕事納めを十二月二十七日とし、昭和四十五年一月五日を仕事始めとすることとした。

実践に重点を置こう

幹事長　尾形智矩

激動の年一九七〇年は本会にとっても最も活動の仕甲斐のある年であり、その波が激しければ激しい程、本会はこれを試練として乗り越えて行く覚悟が必要であります。この一九七〇年を迎えるに当り、会員各位とともに新たな意欲と新鮮な決意によって迎えたいと存じます。

本会は今を去る十八年前、昭和二十八年四月二十九日、同志相集い結成され、以来十七年に渡って友愛運動の普及を前面に押し出して活動を展開して参りました。結成時の苦労は言うに及ばず、故鳩山一郎先生の呱々そして全国を縦横に駆けめぐり、今日あるを築いて来たのであります。先人の御苦労を謝し、会員各地で活動する同志諸君に心からの感謝の意を表したいと存じます。

今日、本会は中央青少年団体連絡協議会役員団体として広く青年運動の一翼を担い、万国博世界青少年のつどい実行副委員長、事務局次長団体として活動推進の中核を担い、世界連邦日本青年協議会、核兵器禁止平和建設国民会議、青少年育成国民会議、新宿運動協会等々の中心団体においてもその役割はきわめて重要性を増して来ており、揺ぎない活動体制を持つに至っております。

そこで、私は年頭にあたり友愛運動発展のため、本会内部において次の三点を取り上げ提案し、本年度の課題と致したいと存じます。まず第一に組織の量的拡充によって迎えたいと存じます。次に友愛運動推進のため活動家の大量養成を図って参りたい。第三番目に友愛会館建設の具体的推進を図るという三点であります。

第一番目の組織の量的拡充について、以前より組織の拡充強化を謳って参りました事ですが、更に一歩を進めて、目的を会員の拡大、組織の拡大に焦点を合せて参ります。これについては都市の青年核兵器禁止平和建設国民会議、青少年育成国民会議、新宿運動協会等々の中心実態②青年の意識③青年運動（グループ活動）の実態の三点による現情分析の後①情宣活動の方法②仲間に接触中間への誘い③レク活動による入会法、それに運動活動の四点による導入方法、それに組織での受け入れ制の整備を図ったり運動の成功を期したい。この為、活動道具、機関紙友愛を通じてその浸透を図り、全国一体となってその実施に当たるべく、機関紙友愛を通じてその浸透を図り、全国一体となってその実施に当たりたい。

勿論、研究をしながら実践という方法がとられようが、とにかく実践あるのみという姿勢で邁進して行きたい。

次に、活動家の大量養成について、指導者の必要性は、その運動においても、どんな団体においても欠くべからざるものであります。それにはまず何よりも実践の中から鍛え上げられた活動家が一番です。体で、体験で、肌で接した指導が、試行錯誤の連続であろうと何よりも強い説得力であり、真実であると信じます。

第三番目の友愛会館の建設運動具体的推進については、数年前から全国大会スローガンをして取り組みがなされながら、その運動がなかなか盛りあがらなかったという点は、誠に残念であります。青年は無から有を生じさせる魔術師であると言われるが、我々の運動は無から友愛運動を起こし、友愛山荘の建設、友愛運動の実績というものを築きあげている唯一の機会であると言って良い。そして本会の計画する研修会、研究会、講習会において機能的養成を進め、他の団体の主催する事業に参加し、各自の体験を基とした相互交換によって養成を図って参りたい。その中で自分の作成、その為の資金の捻出方法等について議題として参りたい。

沖縄の問題は長い間の積み重ねであり、簡単に解決出来ないものと信じます。

第十回常任幹事会は、田中祥子常幹の議長の下に行なわれ、議題は次のものであった。

①友愛文化講演会の評価と反省②友愛文化講演会今後の取り組み③会員増加月間の取り組み④歳末助け合い運動の取組みについて　⑤実践アジア派遣について　⑥C・P・R所修計画派遣について　⑦その他である。

①については、沖縄・近畿ブロック、東京と落ち、盛り上がりが徐々あり、動員面に於てもかなり積極的な動きがあった。又、来年実施する場合、出来る限り資料を揃える事とした。②は、四国ブロック、九州ブロックに開催される予定であるが、準備の方全を期することとし、他の開催予定地は発議院解散のニュースが流れており、延期することとした。③は、組織部より依頼があり、十一月に各会員一名獲得運動を起し、役員も相当の会員獲得目標を展開することとした。④は、十一月一日より二十五日まで行なわれ、本会としては、例年通り取組み、支援をもって方策を指導することとした。⑤は、三月中旬より四月上旬までに予定期間を立て、詳細は事務局にて作成することとした。⑥は、毎年米国より、招待があり、希望者があれば、推薦することとした。

尾道友愛山荘

中国地方随一の景勝地である尾道千光寺公園内に三階建の快適な宿泊施設をほこり、太陽に輝く瀬戸内海を望む楽しい旅行に是非御利用下さい。

広島県尾道市千光寺公園内
尾道友愛山荘　TEL尾道（0848）（22）5554
所長　高橋　霊宣

（ユース・ホステルの規則に従っています）
宿泊料金　1泊2食　会員 550円　一般 600

友愛山荘

軽井沢の夏は世界の避暑地としてまた冬のスケート王国としては勿論四季を通じての美しさは，若人の心をいやし明日への活動を約束いたします。

長野県北佐久郡軽井沢町1608
軽井沢友愛山荘　TEL軽井沢（02674）（2）2477
ペアレント　三　浦　満

軽井沢友愛山荘

磐梯友愛山荘

朝日磐梯国立公園の囲まれた景観の中に建って，東洋一を目ざす猪苗代スキー場と荷潟な猪苗代湖を望み春夏秋冬それぞれの美しさをほこっています。

福島県耶麻郡猪苗代町字葉山
磐梯友愛山荘　TEL 猪苗代（02426）（2）3424
ペアレント　卯　月　研　造

問合せ　財団法人　日本友愛青年協会
東京都文京区音羽1－7－1　TEL（941）2801

量的拡大路線作ろう

大衆基盤の活動展開

新春常幹懇談会で意向示す

司会＝田正太郎務局事長＝今日はお忙しいところをありがとうございます。一九七〇年は日本の飛躍の年であり、激動の年であるとも言われていますが、一九七〇年代を目前の時代とし、未来を築く豊かな年にする意味で御意見を賜りたいと存じます。十七年の歴史の中で種々な反省もありましょう、現実に対する御批判もありましょうが、常幹の諸級の御意見で友愛発展の基を作って参りたいと存じます。どうかよろしくお願いいたします。

早川中常幹＝私が一番年長者の部類に入りますので、口火を切らしてもらいますが、文化講演会の成果と、組織の伸びはどうかね。

渡部文雄常幹＝組織の爆発的伸びというのはありませんが、文化講演会の影響で岡山県連のように再建の成った所もありますし、入会者の減少した所もありますし、講演会を契機に組織を作りたいという所もあります。今までにない大きな業績であったということで効果はこれから表われると思います。

尾形知雄幹事長＝組織の面についていうと、大会を中心として、大会終了後と大会前に組織が増えるという傾向があり、一九六九年もほぼこの線でしたね。

佐々木恵美子常幹＝私も年長者の部類だから、はっきり言わせてもらいたい面があるんですが、財政面でのいま一歩の努力が足りないと思うんだ。いい線まで行っていてもう少しという所での伸びが無いという事は、財政面の欠乏が響いていると思うんだ。そこに政治面での確立を図ることが何よりの先決と言いたい。

早川＝まあ、それが一番大きな問題だと思うし、会費の完納、費用の徴収に努めることとして組織の伸びをもう一面から見ると今の若い人達というのは目的がはっきりしないとついて来ないということだね。今まで、山荘と海外派遣と旭山という三つの看板で組織を持ってたえて来たと思うが、この際、目的を明確にして若者を招み、発展させる方法を講じなければならない時期に来ていると思うな。

司会＝そのことですが、断絶の時代なと言うが、人間一人では生活できないし、青年に大人、青年同志が会合し合いながら、また自らの殻とじこもりながらも、何か手がかりがあったら機構のつながりを欲していると思いますが、そうすると一見的つながりのキッカケを捉むのは難しいようですが、レク活動が一番と思います。内容を考えたレク活動によって、マンネリ化を防ぎながら人間的結びつきを深め、友愛運動に強く引き入れて行くべきだと思います。

早川＝私は今の意見に賛成なんだが、一、二年今の意見を必要があると思う。共産党なんか、昔は組織がしっかりしていたけれども恐ろしくて入れなかった。今は恐しいというイメージをなくして大衆路線を歩んでいる。あの組織がしっかりした上に大衆路線を躍進していると言える。

若い人を見ていると、私の所は山の中だが七～八〇名は都会へ出て来ている。そして都会の生活にほっぽり投げられる。そこでは一人で、寂しくて、普通の精神ではいられないと思う。中・高校を出て来た人なら特に精神的に恵まれていない。この人たちに最初に手を差し延べたことは絶対だということ。この精神的問題を提めた会は、その人たちに何物にも代えがたいものになってくると思うな。だから、内容ある二の活動によって一～二年やってみたらと思うんだな。イデオロギーを後ろに引っ込めて、とにかく最初に繋りを持つるということを先決にする。それで組織を膨張させる、量的拡大を図る以外ないと思う。

渡部＝それは路線の変更ということになるのではないですか。

早川＝路線は言う程変更するのでは無いと思う。今まで友愛は純粋性を尊いとした面があるが、その反面雑多なものが入って混じるという面でなげていた面もある。

司会＝大衆路線が理論で引っぱるの二つがあると思いますが、拡げる意味では人海戦術をとる大衆路線が望ましいと思いますが。

早川＝私は人海戦術をとる。理論というものは組織が大きくなれば、それ相当のスタッフをそろえて作られて行くと思う。要するに組織を一段飛躍させておいて、その中で理論も作り、財政も豊かにしてゆくことができると思う。組織が伸びず、理論だけというても無理だろう。組織の飛躍に結びつけレク活動を強力に進めるというのに皆が賛成ならやって行きたい。

瓦力常幹＝早川常幹の言われたことに賛成であり、私の持論でもあります。つねづね勤労青年にかたアプローチして行くかが問題だと思っとったんですよ。六〇年代後半は都市への人口流入が激しく、七〇年代はそれが少しは残るが流したものが青年化してゆくと思うとるんです。量的拡大を今からやるならば、一九七〇年代は友愛の年代になる。ダイナミックな活動を期待できると思うな。同志諸君が政界に財界に教育界に幅広く活動すると思うが、その時必要なのは理論の前に行動が、言ってみれば働き手がおらんと組織というものは伸びんと思いますな。

秋山貴慶常幹＝これは私の反省にもなりますが、どんな小さな集りにも積極的に出かけ、集会をリードできる指導力と人を説得する熱意と資料を整える必要があります。小マメな動きを全体の動き方としてやって行かなくてはならない。我々こそ最前線の闘士とならなければいけないと思います。

早川＝やっぱり行動力だな。まだまだ仲間を必要としている多くの青年がいるな。各事業所に求人ターや案内書を持って講演会のときは歩いたらどうだ。そうした努力を日常の活動の中でして行かなければいかんと思う。人海戦術、一人一人の努力、過ぎしさという面が組織の中になげていたんだな。

具体的に何をするか

司会＝やってやってやりぬくということでしょうね。こう意見がまとまってくると次にどうするかということになって来ますが。

皇漢夫常幹＝私は今、今の若い人達の考え方を一生懸命考える。そのなかで未知の物を知る、新しい仲間を知る。昔ではやることが決まっていたという面があるので、今みたいにレジャー産業がグイグイと若者の中に入っていって種々な考え方を持つようなキッカケになっていると思うんですよ。ですから、ゴーゴーでも、スキーでも、スケートでもキャンプでも幅広く間口を拡げ、青年の感覚的な面に焦点を合せて行く。次に第二段ロケットですが、私は計画性ある活動、内容ある活動を進め、友愛運動に引き入れて行くということだと思います。大網を打った人は獲った分何をするかでは意味のない事です。若者を適確にとらえたら、それをスケジュールに乗せ友愛マン、友愛ピアーにして行く軌道を作ることだと思う。山荘活動については即月常務も居られますが、レジャー産業の研究という面で山荘の位置づけをしてみるのも面白いと思う。ある面では財源は大的要素を持ってもいいし、楽しい山荘活動ということになれば、来た人も友愛山荘に来たという感謝を持つと思いますね。

永田清成常幹＝皇常幹の御意見もっともだと思います。そこに加えて、私は東京の組織を最大限に伸ばしたいと思います。種々意見が出ましたが、都会特に東京という所の組織を全体は充分対策を考えるべきです。重層構造でくべきです。その意味で人材養成が非常に重きを成しますね。そして活動が活発になると本部では手狭になる。友愛会館が必要になるということです。

田中祥子常幹＝私は大賛成。今年度本部の一切の事業を取りやめても本腰を入れて会館建設を進めても いいくらいに思っています。それができなかったら他の事業を附属的にしてでもできないかと思います。

尾形＝田中常幹がそこまで言われることは嬉しいが、そこまで言いますと行き過ぎなんで、作らなければならないとは我々の使命と考え一九七〇年代の早いうちに建設しなければならないと思うんです。話しを当面の方へ戻します。本会が純粋性を追うあまり排他的になっているという面、これを是正して行かなくてはならないと思います。我々は開放しているつもりですし、誰でもいらっしゃいという積りでいますが、第三者に言わせると雰囲気にとけ込めないという面があるかも知れません。大会程は大衆の為にやっていると自分達では言うが、それが表に現われていない。返って共産党の方が二コニコムードで拡がっていると言う面を感じます。これらを他山の石としなければいけません。大衆路線に歩み出すにまず第一番に解決しなければならない点です。さっきとなったが言われましたが行動以外にないと思いますね。

瓦＝今はやりの言葉で言えば体制内革新という事ですね。意外と自分達の活動の中にとじこもってしまう。他の物は見えなくなってしまう。いい仕事をしても何故評価されないのだろうと目に茅盾に陥ってしまう。今はやりのデボノ式の水平思考で他の地点に立って考えると壁というのは意外と モロイ場合がある。そして事務局に お願いなんだが、仕事を一つ一つ各ポット納めて行くという事だ。のべつまくなしに仕事に追れていて大変だと思うが、次の仕事に移りながらもキマリをつけていくという姿勢が必要だと思うね。

尾形＝その点は確かにやりましょう。皆様もお忙しい時間を繰り合せて活動しているのですし、私共も更にがんばりたいと思います。

添野元晴常幹＝私は学生時代からこの運動に入って大いに勉強させてもらっていますが、話がレク活動を中心に進もう。大網を打って行こうということになって私は大いなんだな。仕事を一つ一つ各ポットに納めて行くという意識によってまた意欲も変って来ようと思います。本当は十年間ですから十ヶ所に言いたい所ですが、控目に申し上げたことを付け加えておきます。

司会＝最後の方になって種々と景気の言い話しになって参りましたが、今年はどうやら会員を増やすことに重点を置いて運動を進めるというのが皆様の御意見の線ですね。山荘建設、会館建設、財政面の確立等沢山でて参りましたが、活動家は行動をもってその本分とし、青年層を系分拡張し、社会の変化とともに活動を弾力的に展開し、レク活動を通して多くの仲間を友愛運動に引き入れて行こうというのが今年の契いの線です。これを基に一九七〇年代、一九八〇年代を拓いらるべきいい青年を本会から沢山社会に送り出すよう努力して参りたいと存じます。今日はどうも遅くまでありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

若い女性のために

反省の機会

鳩山 薫

この間新聞で読んだのですが「反省の機会」ということを書いて投書なさった方があるんです。

何新聞だか忘れましたが、たいへんにいいことをこの方はお感じになっていらっしゃるのだなと思ったのです。この方は東京の方ですけれども、お年が書いてないんですが、ですけれども主婦と書いてありますからそんなに若い方ではないと思います。

「一昨年のことでした。ふとした不注意から足首の関節を折り、とたんに立つことができなくなり約一ヵ月入院する羽目になりました。その間に切開手術を折れたところをつなぎ合わせるためにキブスをほめました。その後レントゲンで接続を確かめて

1

くぎを抜き取り、なお数週間マッサージを続けて治癒しました。日ごろのがままでちょっとに不足をおぼえがちにみえた私が歩行不能になって、何から何まで寝たきりのお世話になったのです。そして人々にやさしくしたことにも心淋しく、ものの考え方の深さを、そして各人の肉体に宿る神秘的な自然の動きを思って、ただただ驚くばかりでした。人生途上で私たちは幸福とか感謝とかいうことばを常に口にはしながら、ほんとうに理解していたかどうかをふりかえってみました。この人は足を折ったことによって、その自然の間に人からうけた愛情が身にしみて、いままでの自分のあり方、生き方を考え直して、そして自分が欠点だらけであったということに気がついて反省をなさったということです。

皆さんもこうした病気なさるでしょう。かぜをひいたとか、ほんとうに人間のからだはいつどういうことがあるかわかりませんし、そういうときはなんとかいうことがありますね。かぜをひいたらいじゃひとの手にかかるということもないでしょうが、女の身が長いこと病床にあるということはやっぱりつらいことだろうと思います。

いつどういうことがあるかわからないというのが人生なのです。

皆さんのなかにもこうした世話になったことがあるかもしれません。そういうときは心の底から感謝の気持ちがわいてきました。がんこで融通性のない女ひとりの欠けた自分が折によって反省の機会を与えられたのでした。

たかどうかをこうみじみ考えたものそのときです。いまいわゆる男女平等の時代になり、女性は強くなったといわれています。しかし女性には女性固有の本性があり使命があります。それを家庭づくりにいかして子供たちの情操をいっぱい豊かなものにし、小さいようでいろいろひとくふうしてやってやって自信をもたせ、すこやかに個性を伸ばし、社会

中で理論も作り、財政も豊かにしてゆくことができると思う。組織が伸びず、理論だけというても無理だろう。組織の飛躍に結びつけレク活動を強力に進めるというのに皆が賛成ならやって行きたい。

瓦力常幹＝早川常幹の言われたことに賛成であり、私の持論でもあります。つねづね勤労青年にかたアプローチして行くかが問題だと思っとったんですよ。六〇年代後半は都市への人口流入が激しく、七〇年代はそれが少しは残るが流したものが青年化してゆくと思うとるんです。量的拡大を今からやるならば、一九七〇年代は友愛の年代になる。ダイナミックな活動を期待できると思うな。同志諸君が政界に財界に教育界に幅広く活動すると思うが、その時必要なのは理論の前に行動が、言ってみれば働き手がおらんと組織というものは伸びんと思いますな。

秋山貴慶常幹＝これは私の反省にもなりますが、どんな小さな集りにも積極的に出かけ、集会をリードできる指導力と人を説得する熱意と資料を整える必要があります。小マメな動きを全体の動き方としてやって行かなくてはならないと思います。

早川＝やっぱり行動力だな。まだまだ仲間を必要としている多くの青年がいるな。各事業所に求人ターや案内書を持って講演会のときは歩いたらどうだ。そうした努力を日常の活動の中でして行かなければいかんと思う。人海戦術、一人一人の努力、過ぎしさという面が組織の中になげていたんだな。

ラジアルのなかのラジアル！
ラジアル・11
—イレブン—
スタート・ストップ・コーナリングは思いのまま！ 活動派向きのタイヤです
高速にもっとも安全
BS ブリヂストンタイヤ

地方だより

楽しく意義ある集い

年末の活動を活発に展開

年末は歳末助け合い運動をはじめ、研修会、講演会、クリスマスパーティー等各地で沢山の事業がおこなわれた。内容もそれぞれ特色を生かし、より高い活動への努力を積み重ねる実な活動の展開が図られているようである。

ハッスルする今治

充実した活動積み重ねる

【今治発】発足盛んな意欲の下に目覚ましい活動を続けている今治支部（支部長＝村上司郎君）では十二月を歳末月間と定め四十四年の終りを大きな成果と共に閉じた。

十二月二十一日（日）午前九時から正后まで、市内孤児院「あすなろ学園」を慰問し、"もちつき大会"を開いた。会員二十名がもち米をもち寄り二斗を園児とともにワイワイガヤガヤと忙しく、楽しくついた。つきたての餅を園児と共にダイコンおろしやアンコで食べ、お礼に園児のクリスマス劇を見せてもらった。小さいながら一生懸命にやる演技をみて「来て良かった」という気持を全員が抱いていた。終りに、村上支部長より、「これを機会に園児の皆さんと楽しく過ごさせる積々と連絡して行きたい」とこれからの交際を約してあすなろ学園を後にした。

同日午後六時半からは会員を中心として「友愛クリスマスパーティー」を開いた。友人等を含めて約百名が集う盛大な集いになった。村上支部長より歓迎と感謝の挨拶の後、ダンス、ゲーム、歌の合唱により和やかな楽しいとなった。会員は午前中のもちつき大会などの事、友人は今日のつどいの事、それぞれ感激を新にして午後九時に閉会した。

十二月は歳末助け合い運動の一環として、今治支部が提案し今治市青少年団体連絡協議会に加盟する八団体に呼びかけ街頭募金がおこなった。十二月二十、二十一、二十七、二十八日の四日間会員は率先して町に立ち、街頭募金を呼びかけ約十万円が集り、今治市社会福祉協議会に配分を依託した。

新会員も含めて

城北クリスマス

東京城北支部（支部長＝田中恭一君）では、去る十二月十三日（土）にクリスマス会を開催したこのクリスマス会は、会員だけでなく、会員の友人や、兄弟、姉妹もそって来るよう呼び掛けられた。

新しい仲間も多数加えて、参加は三十八名。会場は、担当者の予想を越えて満杯になってしまった。ゲームや、会員の友人のフォークバンドによる演奏と歌。諸物価値上がりにより、苦労して百円以内で持ってきたプレゼントの交換。そして、ローソクの光の中に浮んだ仲間達が背を組んで歌う「清」この夜」で幕を閉じた。

友愛青年同志会の組織拡大が大きな問題となっている。しかし、仲間を地のそう、ということだけの事であるのに、ひどくむつかしい事のように考えてしまう。新会員を迎える前に、内部充実が必要であると言って、いつまでも募集に手を付けずに終る事もしばしばであった。

城北支部では、このクリスマス会で、新しい仲間と共に語り、共に遊び、共に感う事がどんなにすばらしいかを身をもって知る事ができた。そしてまた、仲間を呼ぶ事が、考えているほどには、むつかしい物事でない事も知り得た。

城北支部では、自分達の力でどんどん仲間を増やして行こうと意気込んでいる。

さあ活動の基礎造り

今治で支部研修会ひらく

【今治発】愛媛県今治支部（支部長＝村上司郎君）では、去る十二月八日（土）、九日（日）の一泊二日に亘って、今治市内一新水旅館にて支部研修会を開催した。

初日午後七時に参加者は全員集合し、村上司郎支部長より、開会の挨拶があり、次いで、研修に入った。

研修会は、初めてであるし、まず、支部の運営問題、活動における友愛の位置づけ等の点のテーマを出し、地域支部としてのあり方を活発に討論し合った。又十一月十三日（木）に開催された友愛文化講演会の現状分析と今後の活動の進め方についての話し合いも行なわれ、時間の過ぎるのも忘れ遅くまで、皆活発に話し合った。

二日目には、本部より早朝、講師が着き、第一時間目「友愛の基礎知識」より、研修に入った。皆昨夜の疲れがあったが、寝ぼけもフッ飛ばし、元気に参加した。次いで、「友愛の理論と実践」について」と題され、昼食時には、皆揃って近くへ散歩しに行き、気を精々させ再び、午後からの研修を受けた。講師による「組織拡大と情報宣伝活動について」の講義を皆熱心に聞き入り、午後四時、二日に亘る支部研修会を、山本事務局長の閉会の辞によって無事に終了した。

都連で会員増

加対策を検討

去る十二月二日午後四時より組織委員会では、先に決定した会員増加運動の盛り上げ策の一つとしての東京都内の支部組織の東京都連および学生部との懇談会を開催した。

都連・学生部の役員、それに在京組織委員から活発な意見が出された結果、会員増加を図るには一般青年を引き付けるような レクリエーション活動を行なうべきであるということに意見が一致した。

早速、十二月の各支部の活動として、ミカン狩り、クリスマス・パーティー、音楽会、ハイキング等を積極的に実施し大量の会員獲得を図ることになった。

みんなの協力で

札幌クリスマス

【札幌発】札幌北支部（支部長＝佐藤喜君）では十二月二十一日、午後四時より市内安藤ビルでクリスマス・パーティーを開いた。

井上実行委員長の呼びかけにより部員全員の協力により部屋の手直しを きれいに飾り、女性会員の手料理をテーブルにならべ支部長の挨拶によって始められた。

最初のうちは札幌支部の会員、元会員、一般の人など入りまじったためか、あまり盛りあがらなかった。しかし雰囲気になじむにつれたがって活発になり、自己紹介、かくし芸と、そしてフォークソングで大賑い。やがて本日の出し物のサンタクロースの登場となって雰囲気は最高潮に達した。サンタが一人一人にプレゼントを配って歩き、その贈り物をみんなに披露した。

ダンスはムード音楽に誘うされ、クリスマス気分は満点であった。

最後に支部長のキャンドル・サービスで閉会した。今回の行事は運営の面に反省すべき点が多くあったが、次回からはもっと研究して頑張って行きたい。

——札幌北支部通信員——

和やかにすごす

城西クリスマス

去る十二月二十四日午後八時より、水道橋の喫茶店「ノドレ」にて第二回城西支部クリスマス・パーティーが開催された。

当日は昭和四十四年最後の事業ということで新入会員も含めて二十数名が集り、和やかなうちに年を迎えた。来賓として本部より長田正太郎事務局長が出席され友愛について、今年の行事や昭和四十四年度の事業報告をまじえた挨拶があり、それから、当日出席出来なかった永田清成支部長の地方出張のため、尾形治男の代理挨拶があった後、いよいよパーティーに入った。

今回のパーティーは新入会員が参加したため、懇親会の意味も含めて自己紹介から始まり、それからゲーム、歌謡、プレゼント交換合唱を行ない、最後にキャンドルサービス。そして輪を作り会員相互の親睦を深めあった。

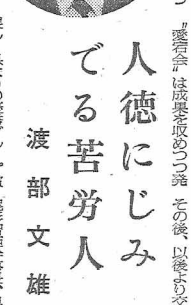
当日は師走の二十四日でもあり又銀座では総選挙も手伝ってなんとなくあわただしい状況であったが、このパーティーだけは和やかな落ち着いた雰囲気のうちに無事終了した。新入会員も固まり、会員相互の自覚の下に明日より新しい友愛社会へ向って全員が一致団結して前進することを誓い、閉会した。

新常幹プロフィール

第十六回全国大会では友愛山荘管理主事から二名、本部常勤者から二名の常任幹事が誕生した。本部常勤者からの常幹は渡部文雄君と永田清成君である。

渡部文雄君は昭和十八年九月三十日福島県郡山市麻那塩原村に生る。塩原村は磐梯山の裏側になり磐梯朝日国立公園に位置する風光明媚な地方である。

地元の小学校、中学校を終え十四年に会津地方の名門校の一つである県立喜多方高校に入学。この頃から渡部君の社会に対する目が開けてきた。



人徳にじみでる苦労人

渡部文雄君

当時大陽族などの影響により高校の生活風紀が乱れ、その弱られとして同期生から多数の学生、退学者を出すなど開校以来最悪期の高校生となり社会的評価さえはなはだ低かった。こうした情勢を遺憾として渡部君が中心に同志を集め高校生の質的向上、不良化防止のため"憂君会"を結成し高校生の理想的生活像を求め活発な活動を始めた。

渡部君は中学時代は徒会長として活躍してその名を成した人物であるが"憂君会"の運動を進めるにゆくうえでもその経験は大いに役立った。

"憂君会"は成果を収めつつ発展し県よりの優秀グループ賞に輝くなど他のモデルとされるまでに成長している。

三十七年四月専修大学法学部に入学。在学中は腕にものを言わせ血潮を捧げさえ学生運動活動を求め活発な活動に努めた。

会運動には積極的に参加せず読書に努めた。

四十一年同大学卒業。卒業後考えるところがあり六ヶ月余り郷里で晴耕雨読の生活をおくり、その後、以後より交際のあった友愛論と組織論を強調していった。その結果組織方面を歩くことになり地方対策部長となりその手腕を発揮。

第十六回全国大会では常任幹事組織部長、全国組織委員長に選出され組織関係の最高ポストを独占した。渡部君はこのような場合が与えられたのは彼の過去の努力と実績によるものであることは論をまたないが、同時にまわりかねにきいている友愛組織を知りに発展させていくかという課題に真正面からとり組みこの難題を解決し組織を発揮させる者は渡部君をおいて他に人なしという期待からであろう。今後の精進が望まれる。

尾形智短幹事長、早川広中前事務局長にすすめられ友愛運動に専念するようになった。

友愛に入ってから事務局で雑務の処理のみならず組織関係に強い関心を示しこつこつと

中央日誌

11/1 第一回中央報告講演研修会（～三日）於鳩山荘
5 第七回常任幹事会（後七時 於本部）
6 中青連）
7 早朝募参会（前六時三〇分 於谷中）
8 友愛婦人会（後一時三〇分 於はなれ）
10 北方領土打合会（後二時 於北対協）
12 友愛クラブ例会（正午 於東京ヒルトン・ホテル）
青少年とともにすすむ運動推進協議会・総会（後一時）
四国ブロック友愛文化講演会
十二日 高松
十三日 今治
十四日 高知
十五日 徳島
13 北方領土復帰促進国民大会実行委員会（後一時半 於北海道庁東京事務所）
沖縄解決国民総決起大会（後一時 於武道館）
15 友愛クラブ忘年会（後五時 於あきの）
17 中青連委員会・万国博世界青少年度成国民会議幹事会（後五時於あきの）
20 青少年育成国民会議幹事会（後六時於鳩山会館）
22 第37回青少年度成国民会議幹事会（後五時於あきの）
25 体力つくり都民会議（後一時於農協会館）
26 万国博、世界青少年のつどい実行委員会（後五時中青連）
27 第四回理論委員会（後六時三十分於本部）
29 北方領土国民大会実行委員会（後一時於北海道東京事務所）
北方領土復帰促進国民大会（後一時於日比谷野外音楽堂）
12/7 早朝募参会（後五時於赤坂"司"）
10 友愛クラブ忘年会（後五時於赤坂"司"）
12 青少年育成国民会議論文作文予備審査（於パークホテル）
中青連委員会・万国博世界青少年のつどい忘年会（於日本青年館）

地域連帯呼びかける

田辺、滋賀両支部交歓会

【大津発】滋賀県支部では去る十一月二十一、二十三日の両日、田辺支部（和歌山県）との支部交歓会を開催しました。

私達の支部では過去二回の全国大会に出席致しましたが、その結果痛切に感じたことは、支部と支部との交歓会が是非とも必要だということです。

とりわけ私達の支部は郡部甚だしく、いろいろと困難な問題をかかえ、また未知の事柄も多く、この解決は単に年一回本部が招集する全国大会での参加及び論議では不可能であることを知らされたのであった。

故に本年度はとりあえず優秀支部長輝いた和歌山県田辺支部との交流をはかるため招待状を発しましたところ同意の回答を得、本月二十二、二十三日の両日、実現致しました。

田辺支部より橋支部長他四名（男女各二名）の参加を頂き当支部より九名参加、種々懇談し、私たちの今後の運営上に有益になりました。

第一日目は会食をしながら午後十時頃散会、田辺支部の四人を宿舎に案内してその日を終りました。

第二日目は、田辺支部の希望により二部日程を変更して午前中は、大津石山寺の史跡を見学し、中食後第二回目の懇談会をなし、午後一時二十五分大津発にて帰途されました。

以上、正月以降は、組織の拡大に手を挙げたいと思っております。

——滋賀支部通信員——

営業品目
機械部　電子計算機・電子複写機・タイムレコーダー・ベルタイマー
化成品部　ビニール・プラスティック・ポリエチレン製品の製造及加工
紙業部　紙袋・包装紙印刷・洋紙　特殊紙・その他・紙工品
自動車部　ホンダ N360・ホンダ二輪車・自動車損害保険
特販部　コピー用紙（電子・ジアゾー・ゼロックス）現像液・トナー・青写真
ニッセー株式会社
東京都千代田区外神田4丁目5番4号
電話東京(03) 253—7581(代)

株式会社 中嶋組
取締役社長 中嶋信行
東京都世田谷区玉川中町二の五九
電話（七〇二）一三一～四番
営業品目
アスファルト系舗装工事
セメント系舗装工事
其の他各種舗装工事
舗装に付帯する各工事

創業25年余の伝統と技術を誇る！
特殊切削工具メーカー
森山精密工具 株式会社
取締役社長 五十嵐省吾
本社工場 東京都品川区西大井6—14—3 TEL (03) 774—0881(代)
第2工場 東京都品川区豊町2—8—7 TEL (03) 783—6405
営業所 東京都墨田区東向島6—52—5 TEL (03) 314—4197(代)

綜合警備・各種建築内外清掃
ボイラー・電気保守管理業
指定 北海道教育委員会・札幌市教育委員会
室蘭市教育委員会
株式会社日本製鋼所
東洋実業株式会社
代表取締役 吉川昭市
副社長 向田忠一
本社 札幌市南1条南2丁目（勧銀ビル8階）
電話 代表 25—2211内線219
直通26-9520・9521 夜間直通25-2217
営業所 釧路・帯広・室蘭・苫小牧・岩見沢